



特殊金属エクセル（東京都豊島区、谷口毅社長、03・5391・6151）の高強度高延性ステンレス鋼「TOKK IN 350」写真」の受注が好調だ。ハプティック（触覚）デバイス用として開発したもので、2016年9月の受注開始以来、スマートフォン

バネ部品向けで受注好調

高強度高延性ステンレス鋼 特殊金属エクセル



やウェアラブル端末のバネ部品用として採用実績を伸ばしている。ハプティックデバイスや時計部品などに対応可能。

TOKK INは従来の高強度鋼板に比べて強度と延性のバラつきが小さいため、高い精度が要求される。このほど東北大学などで行われた日本金属学会秋期講演大会において、TOKK INを特殊仕上げした製品が「第41回日本金属学会技術開発賞」を受賞し、

独創性も評価された。複雑な成形が必要な電子部品や精密機械部品を対象に用途開発も進める方針で、22年には年間150万本の販売を目指す。